



学校教育目標 **たくましく未来を切り拓く子どもの育成**
「なりたい自分になる」 いなさっ子の**学びの多様化**に応える

特別支援教育ってなに

トモ学園のような学び舎を目指して

多人数集団と比べ、その子にとって必要な支援が得られやすい環境、個別最適な学びを提供することで、その子のもつ可能性を最大限引き出す環境。それが特別支援学級や通級指導教室です。環境や状況は違いますが、通常の学級でも特別ではない特別支援教育が行われています。

稲佐小学校がロケ地となった福山雅治さんの「トモエ学園」。女優・黒柳徹子さんの半生を描いたドラマ「トットちゃん」の主題歌です。好奇心旺盛すぎるトットちゃんは、授業中に机のフタを100回ぐらい開け閉めしたり、教室の窓から大声を出したりしたため、『悪い子』のレッテルを貼られ、尋常小学校を1年で退学になります。そこで、東京・自由が丘にあった少人数クラスで、自分のペースで学びを進められるトモエ学園へ転校し、楽しい学校生活を過ごすのです。

黒柳さんがトモエ学園に救われたように、成長途上において個性やちがいで悩んでいるお子さんも特別支援教育で救われる可能性が高いと考えています。「勝ち負けに強くこだわらな」「怒りや感情のブレーキがきかない」「見通しがもてない」「他人の気持ちに共感できない」「集団や大きな音が苦手」「一斉の指導では十分に理解できない」「等々、集団刺激の中で毎日困り感を感じながら生活することが増えると、自己肯定感が下がることにもつながります。

私は視力が悪く、遠くのものによく見えません。ですから、通常は眼鏡をかけています。しかし家庭では、テレビを見る時と外出する時以外は、ほとんど眼鏡をかける必要はありません。

特別支援教育は、困っている子どもたちの不安を取り除くために、必要な合理的配慮を行うことなのです。

1年のまとめの学び あれこれ

1年生による生活集会

児童による最後の生活集会は1年生。一生懸命練習し、全校児童の前で立派に発表できました。

子どもに委ねる学び

今回は、3の1(算数)、3の2(社会)、4の1(算数)の「子どもに委ねる」公開授業の様子を動画でお知らせします。

3の1(算数)

3の2(社会)

生活集会

積雪のオンライン対応

2月初旬、強い寒波により、市内の山間部の学校では休校が続き、本校職員も徒歩で出勤してきた者もいました。が、練習どおり、全クラスで登校できない児童を対象にオンライン授業を実施しました。感染症でも体調が比較的良好な子は利用しています。(動画参照)

4の1(算数)

オンライン授業

※公開授業等の文字は、ホームページでは公開しません

先生

No.24



今回は、くすのき学級担任で、本校の特別支援教育コーディネーターを担当している〇〇〇〇(〇〇〇〇)先生です。自身が小学4年生の時、毎日学校に行くのが楽しくて、その時の担任の先生のようになりたいと思い教師を志したという〇〇さん。6年前に本校に赴任した際に担任をした5年生(現在高1)の子どもたち、そして当時同学年を組んだ若い女性の先生(実名は長男さんと幼馴染だったそう)との運命的

な出会いが、本校での自分自身の原点と語る〇〇さん。人生の半分は、何らかのトラブルがあるもの。残りの人生は、その解決するためにあるようなもの。どんなトラブルに直面しても、「これからも笑って乗り越えていきます。」と笑顔で話してくれた今日も元気な〇〇さんでした。

笑う門には

福来たる

カニ座

〇〇先生

ケセラセラ

先月、本校の卒業生の高1の女子二人が来校し、「生活が困窮しているご家庭の新一年生のために、各家庭で不要となったランドセルを集めて寄付する活動に取り組みたい。協力依頼することがあるかもしれない。」と話してくれました。二人はその後、出身保育園等でニーズ調査を行い、自分たちの高校生活で残された時間なども考え、今回は卒業中学の淵中学校に依頼し、「家庭に保管しているランドセルを寄付できるかのアンケート」をとらせていただくのだそうです。ランドセルの運搬や保管に際しては、民間企業に協力を取り付け、今後計画の具体化を進めていくのだそうです。様々な組織の大人たちと会い、頭を下げて協力を求め、限られた時間の中でロードマップを描いていく。二人にとっては、生まれて初めての経験でしょう。自分が高1の頃を思い返し、「行動力・コミュニケーション力が半端ないなあ」等と、感心しています。最も興味深いことは、今回紹介した〇〇先生や〇〇先生が担任の時に一緒に取り組んだ「平和学習」や「省エネ活動」がこの活動の原点だと話してくれました。

